

全校朝会 「老いたる馬は 道を忘れず ―午年―

コツコツと粘り強く努力しよう 」

令和8年1月15日（木）

奥沢小学校長 前田 恵里

新しい年になり、半月が過ぎました。今年は、12の動物に当てはめている十二支で言うと「子ね、丑うし、寅とら、卯う、辰たつ、巳み、午うま、未ひつじ、申さる、酉とり、戌いぬ、亥い」の午、7番目のうま年になりますね。

「馬」を想像すると、「足の速い動物」「力持ちの動物」「人間と近い存在の動物」といったイメージがあると思います。イメージのとおり、馬は昔から、荷物を運んだり、人を乗せたりして、私たち人間のそばで共に働いてきました。そして、馬は、とても記憶力があり、その「馬」を用いた、ことわざや故事成語は多くあります。「ことわざ」とは、古くから言い伝えられ、生活や生きていくために必要となる知恵や教を短く表した言葉です。例えば、有名なことわざとして



奥沢小蔵書 Gakken
いきものだらけのことわざ図鑑

「百聞は一見に如かず」。これは、ほかの人から何度も聞かされるより、自分で1度だけ見たことの方が納得できるという意味です。ことわざをいろいろと調べると、「なるほどな」とか「良い言葉だな」と思うことがたくさんあります。また、生きていくための指針として、座右の銘としている人も多くいます。座右の銘とは、常に自分の心にとめておいて、自分自身を励ましたり、正したりする言葉です。

では、いくつか「馬」を使ったことわざを、奥沢小学校の図書館にある「いきものだらけのことわざ図鑑」から紹介します。

「馬の耳に念仏」「馬が合う」「馬子にも衣裳」「ひょうたんから駒が出る」などです。意味は、この本を見つけて、読んでみてください。

「故事成語」は昔起こった出来事からできた言葉で、ことわざと同じように私たちに知恵や教を与えてくれます。故事成語は主に中国に由来するものが多く、日本でもたくさんの故事成語が言い伝えられています。その中には「馬」を使ったものも多くあり、人が学ぶ道筋を示すものや、教育に関するものがあります。

「馬」を使った故事成語を一つ伝えます。それは、「老いたる馬は道を忘れず」です。

「老いたる」とは、「年をとっている」という意味で、「老いたる馬」は「長く生きている馬」ということになります。「道を忘れず」は文字どおりの意味で「道を忘れない」ということです。では、どのような教がこの言葉に込められているのか、ある出来事をお話しします。

―故事（簡略）―

〈ある日、村人たちが道に迷いましたが、連れていた年老いた馬が、何度も通った道を思

い出し、村まで導きました。〉

夢ある未来を創る皆さん。今年は午年。日々、コツコツと積み重ねた努力は、時を経ても忘れることなく自分の力として、自分自身を助けます。すぐには成果が見えなくても、あきらめず、粘り強く取り組むことが大切だと、このこの故事成語が教えてくれます。

何事にもあきらめずにコツコツと努力して成し遂げていく 1 年にしましょう。勉強も、運動も、挨拶も、毎日の小さな積み重ねが、いつか必ず自分を助けてくれます。